

(第3種郵便物認可)



しめ縄づくりを子どもに教える「樺の会」の飯下久雄さん(中央)＝たつの市新宮町角亀、どんぐり工房

### スローライフ

## 西はりま

# ローカル主義宣言

2

まるで魔法を働かすやいな目で、子どもたちが身を乗り出してのぞき込む。視線の先は年配の男性が、器用な手つきでしめ縄のわらをなう。



閉校した小学校の校舎で開かれる「直樂ふれあい食堂」。笑顔がはじける＝兵庫県千種町直樂

# お金より心にゆとりを

人。40、50代の若手、もいるが、中心は西本さんと同世代の70代。鉄工所を営む飯下久雄さん(70)＝同市新宮町角亀＝は重機を操り丸太を搬送。手作り窯での炭焼き、シイタケのほたけ木づへんなどを、お手本となって行を流す。

飯下さんの売り上げは年間5万円ほど。だが、西本さんは「遊び心が大事」と明かす。『日本全体が人口減少社会に突入し、かつてのような経済成長は難しい。お金じゃない。心にゆとりのあるスローライフの魅力を、経験や知恵とともには伝えたい』

たつの市新宮町角亀の「どんぐり工房」で毎月開かれる「緑の探検隊」。地元の写真が飾りやキノコ採集などで自然に触れたり、昔の遊びやものづくりなどを教わったりする体験プログラムだ。

主催するのは2007年から活動する里山保全グループ「樺の会」。代表で元公立高校長の西本照也さん(71)＝同市新宮町上野原＝は定年後、高麗香大学で教壇に立つ傍ら、地域で何ができるかを考えてきた。行き着いた答えが「子どものたくましい心と体を育てたい」「荒れた山を何とかしたい」ということだった。

四方を山に囲まれた地元の西樂町地区は、高齢化と過疎化で間伐が行き届かず、山林保全もままならない。

閉校した小学校の校舎で開かれる「直樂ふれあい食堂」。笑顔がはじける＝兵庫県千種町直樂

82世帯の70人が暮らす兵庫県千種町直樂地区。夜のとほりが下り、そろそろ、廃校となつて久しい山

い。閉校後、地元自治会は「農業活性化委員会」を設立。「ふれあい食堂」のほか、味噌漬のプランド米作りや炭の販売などを始めた。学校に調理室とシャワーも整備。旅館業法の免許を取得して都市部からの「田舎区職」の地点、とのアイデアもある。

もちろん、将来に不安はある。「校舎をグループホーム」という話もあった。雇用も見込める。後悔の念がないわけじゃないと委員長の金本秀夫さん(66)「でもたんだん、楽しむ住民が増えてきた。活性化に近づいている感覚はある」

「市場の離脱」とは違うやり方で、ゆつくりと道を開いていく。(松本茂輝、鈴木雅之)

# 西播

■たつの支局  
TEL・・・0791-62-0007  
FAX・・・0791-62-3164

■相生支局  
TEL・・・0791-22-0345  
FAX・・・0791-23-6414

■赤穂支局  
TEL・・・0791-42-2535  
FAX・・・0791-42-9450

■兵庫支局  
TEL・・・0790-62-0775  
FAX・・・0790-62-9800

■佐用支局  
TEL・・・0790-62-2459  
FAX・・・0790-62-2685